

目標
6

個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

市では、総合計画の施策分野の一つに「個性あふれる地域づくりを推進するまち」を位置付けて、地域の伝統文化の継承や、地域資源を活かした新たな地場産業の創出など、地域（振興事務所エリア）を単位とした特色ある取り組みを進めてきました。これは、個性あふれる地域づくりを推進することで、地域の総体である郡上市の魅力を向上させていくといった考えに基づくものです。

新型コロナウイルス感染症の影響による「新たな日常」という社会生活の変化と、それに伴う働き方の多様化によって、都市部の人々が地方に対する価値観を見直し始めている中、地域資源の新たな活用や魅力向上につながる取り組みを展開し、広く発信していくことで、引き続き個性あふれる地域づくりを推進します。

また、人口減少や少子高齢化が急速に進む中、地域活動の担い手の確保は、持続可能な地域を形成していくうえで重要な課題となっています。地域の伝統文化や自然環境、地域活性化につながる様々な資源の魅力を知り、それらに誇りをもち、守り伝えていく人材の育成を進めるとともに、世代を超えた交流の場を創出することで、地域と人とのつながりを深め、互いに支え合う、市民が主体となった持続可能な地域づくりを進めていきます。

なお、各地域（振興事務所エリア）において、分野別の現状と課題を整理し、今後の地域づくりの指針となる地域振興計画の策定を進めております。後期基本計画（基本目標6）では、この中から3つの取り組みを「重点」と位置づけています。

地域振興における小さな拠点とネットワークについて

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が50を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承すること、また、自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

郡上市の人口推移の見通しから、高齢者はますます増えていきますが、反対に地域活動の担い手はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定のエリアにおいて日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」（P36参照）の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

なお、先進的に取り組んでいる事例については、各地域の取り組みの中で紹介します。

八幡

歴史と伝統を守り 互いに支え合う
住民主体の地域づくりを進めます

重点

- ①魅力的で安全なまちづくり
- ②地域資源を活かした産業振興
- ③住民主体による持続可能な地域づくり

大和

誇り高いところを育み 人の流れを
起こし 産業に結びつく地域づくりを
進めます

重点

- ①古今伝授の里づくりと担い手づくり
- ②大和地域ブランドの磨き上げ
- ③みんながつながる大和づくり

白鳥

地域資源を活用し 市民協働による
いつまでも住み続けたいと思う地域
づくりを進めます

重点

- ①道路網の有効活用によるまちづくり
- ②白山文化を活用した市民協働による地域の魅力向上
- ③コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり

高鷲

自然と共存した文化の継承と 安定
した生活を送れる地域づくりを進め
ます

重点

- ①自然環境の保全と開拓精神の継承
- ②産業振興による地域の活性化
- ③誰もがいきいきと暮らせる地域づくり

美並

魅力的なコミュニティの形成による
住みつけたい地域づくりを目指し
ます

重点

- ①地域資源の活用と交流による産業振興
- ②地域の魅力の効果的な発信による観光振興
- ③住民の交流と地域の支え合い

明宝

住民主体による手づくり自治と 産
業の創出を目指します

重点

- ①地域活性化の拠点づくりによる産業・雇用の創出と経済の好循環の確立
- ②地域資源の有効活用と社会基盤の変化に対応した地域づくり
- ③持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくり

和良

地域資源を活用した産業振興を図り
いつまでも安心して暮らしていける
地域づくりを進めます

重点

- ①地域の資源を活かした魅力ある地域づくり
- ②笑顔があふれる住みよい地域づくり
- ③地域の力で将来につなぐ和良づくり

八幡

歴史と伝統を守り 互いに支え合う住民主体の地域づくりを進めます
～水とおどりと心のふるさと郡上八幡～

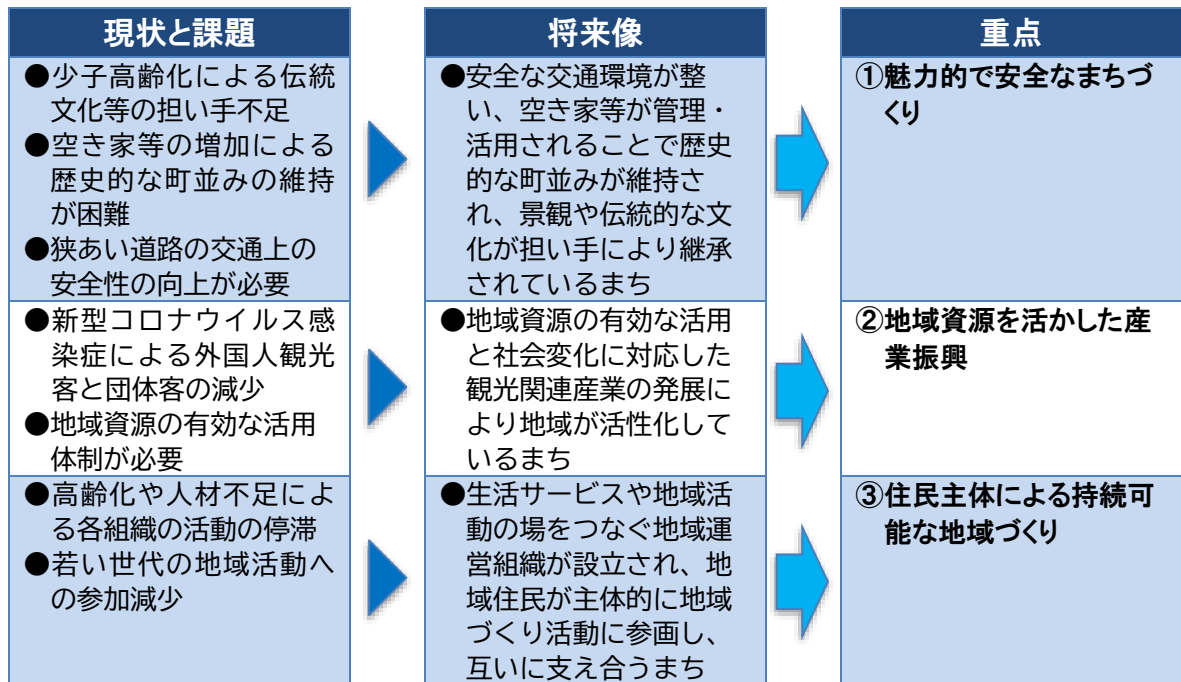
八幡地域の市街地は、八幡城や郡上八幡北町重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする古い町並みや水環境、国重要無形民俗文化財の郡上踊等を有する観光地として知られています。また、周辺の農村部では、豊かな自然や農村景観を活かしたグリーンツーリズム等の地域づくり活動が展開されています。しかし、住民の減少や高齢化によってこれらの文化、景観の維持が困難となっていることから、歴史と伝統を守りつつ、既存の団体が連携し、住民同士の支え合い活動や若い世代の参画を促すことで、地域の担い手確保につなげ、持続可能な住みよいまちを目指します。



郡上おどり



吉田川の川遊び



重点1

魅力的で安全なまちづくり

八幡地域では、郡上おどりや各神社の神楽などの伝統的な文化が受け継がれています。しかしながら、少子高齢化やライフスタイルの多様化に加え、住民の意識の変化や組織の弱体化がみられる地区もあり、その継承が困難となっています。

また、城下町である中心市街地は、無電柱化等景観に配慮したまちづくりを行ってきましたが、歴史的な町並みの中に空き家が増加し、結果として空き地化につながることで、城下町の景観が損なわれはじめています。加えて、幅員の狭い道路が多く、観光シーズンには交通混雑が発生し、混雑解消や安全性の向上が求められています。

現代まで継承されてきた町並みや景観・文化を未来に引き継いでいくために、安全性の確保、保全や担い手づくりの取り組みを行っていきます。

【取り組み内容】

歴史的な町並みや景観を維持・保全しつつ、空き家等を有効利用する取り組みを支援します。

郡上おどりや伝統的水利用をはじめとした観光・文化資源等を継承するため、自治会や学校等と連携した担い手育成に取り組みます。

交通実証実験を行うなど、新たな交通施策導入の検討を進め、安全な交通の確保や混雑解消を図ります。

重点2

地域資源を活かした産業振興

新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまで訪れていた外国人観光客や団体客が著しく減少し、観光関連産業に大きな影響が出ています。これらの社会環境の変化に柔軟に対応するため、近隣から観光客を誘致するマイクロツーリズムへの転換と、農業体験等自然を活かしたグリーンツーリズムを推進することで来訪者の増加を図る必要があります。

このほか、木材等を活用した伝統的な産業や地域資源を活かした新たな商品開発を支援することで雇用の場の創出や生産力の向上を図るなど、地域経済の活性化を目指します。

【取り組み内容】

インバウンドや団体客の減少など、社会環境の変化に対応した誘客体制の整備を推進します。

民泊や農業体験等グリーンツーリズムによる受入体制の整備を支援します。

伝統産業や地域資源を活かした地場産品の開発を支援します。

重点3

住民主体による持続可能な地域づくり

【取り組み内容】

これまで八幡地域では、自治会や公民館、地域づくり団体等が、それぞれ地域をより良くするための取り組みを行ってきましたが、いずれの組織も高齢化や人材不足、活動の停滞などの課題を抱えています。このため、分散している様々な生活サービスや地域活動の場をつなぐ仕組みづくりが必要です。

今後も住み慣れた地域で暮らし続けるために、既存の団体が連携し、役割分担を明確にしながら地域課題の解決に向けた組織の設立を目指します。また、人口減少が進む中で、地域を維持するために、住民同士の支え合い活動や世代間交流に若い世代の参画を促すなど、地域の担い手確保に努めます。

自治会、公民館、地域協議会のほか、各種関係団体が連携した地域運営組織の設立を支援します。

高齢者の見守りや子育て支援など地域での支え合いの仕組みづくりと実践活動を推進します。

地域の担い手を確保するため、若い世代の地域活動への参画を促す地域や公民館等の活動を支援します。

旧小学校を活用した小さな拠点とネットワーク

八幡地域の小さな拠点エリアは、1次生活圏としての市街地のほかサブエリアとして川合、相生、口明方、西和良の5つのエリアに分かれています。

サブエリアの一つ、西和良地区は小さな拠点とネットワークの取り組みが進んでおり、旧西和良小学校校舎を拠点と定め、地元有志が立ち上げた「西和良まちづくり協議会」が地域運営を担う組織として活動を行っています。現在は、地域特産品（ジビエや米）の加工販売や朝市、民泊、ミニデイサービス、地域の農業地の管理・維持などを始めており、今後さらに活動の範囲を広げていく予定です。

その他のエリアについては、地域づくり協議会や公民館などの地域づくりの主体が同じエリア内に複数ある地域もあり、どのようにして活動拠点や地域運営組織の形成を方向づけていくかが課題となっています。今後、西和良地区をモデルとして、地域運営組織の設立に向けた地域住民へのワークショップ等を行いながら、それぞれの小さな拠点とネットワークの形成を目指します。

大和

誇り高きところを育み 人の流れを起こし 産業に結びつく地域づくりを進めます ～みんながつながり 広がる古今伝授の里「大和」～

大和地域は、古今伝授で知られる東氏が中世に拠点を置いた歴史を踏まえ、今日まで「古今伝授の里づくり」と銘打ち、古今伝授の里フィールドミュージアムの充実、文化的イベントの開催、そして、これらの取り組みから生まれた人の流れを地域活性化につなげる事業を進めています。

令和3年は東氏入部800年、古今伝授550年の節目の年となることから、それを契機に「歌のまち」に磨きをかけるとともに、歴史文化遺産や特産品など、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。また、大和地域の賑わいの核となっている古今伝授の里フィールドミュージアムや道の駅古今伝授の里やまと、やまと温泉やすらぎ館、郡上旬菜館やまとの朝市などを活かし、地域で活動する団体や企業などと連携しながら、子どもからお年寄りまで集い交流のできる場を創出するとともに、そこから生まれる活動を支援し、未来を担う人材の育成を進めることで、住む人がいきいきと過ごせるまちを目指します。



薪能くるす桜



東氏館跡庭園

現状と課題

- 古今伝授の里づくりによる交流人口は増加しているが、地域の活性化につなげる取り組みは不十分
- 少子高齢化の進行による地域づくりの担い手不足と地域力の低下
- 地域資源（文化、観光、食等）の活用不足
- 多様化する来訪客への対応の充実
- 小学校の統合に向けた準備と統合後の学校の活用
- 校区が広がることによる地域や世代間の交流、連携の希薄化

将来像

- 「歌のまち」として魅力が高まることでまちを誇りに思い、地域住民が主体となって活動するまち
- 地域の資源が地域ブランドとして確立され、多様な観光客を受け入れられるまち
- 世代・地域を超えた交流の輪がひろがるまち
- 学びを通して人と地域がつながるまち

重点

- ①古今伝授の里づくりと担い手づくり
- ②大和地域ブランドの磨き上げ
- ③みんながつながる大和づくり

重点1**古今伝授の里づくりと担い手づくり**

大和地域は、東氏ゆかりの歴史文化遺産を活かした「古今伝授の里づくり」をシンボル事業として位置づけ、施設整備や様々な文化事業を実施し、その個性を磨き魅力を高めてきました。その結果「歌のまち」としてのイメージが定着し、交流人口の増加につながっています。また、地域の魅力に共感した移住者が増えつつあります。

しかし、このような人の流れを地域の活性化につなげる取り組みは十分とは言えず、加えて少子高齢化に伴う人口減少により、次世代の地域づくりの担い手も減少し、地域力の低下が懸念されます。

このため、東氏入部800年、古今伝授550年を契機に、東氏の歴史や文化遺産を検証し、周知や活用につなげ、個性あるまちの魅力を高め、その効果が産業にも結びつく取り組みを進めると同時に、大和地域に住む人々がまちを誇りに思い、心豊かに暮らせる地域づくりを推進します。また、自分たちの地域は自分たちで良くしていくという気運を醸成し、地域住民の自主的な活動を支援していきます。

【取り組み内容】

「歌のまち」の拠点として古今伝授の里フィールドミュージアムの機能を充実させ、古今伝授や東氏に関する調査研究、文化財の適切な保存と利活用などを進めます。

薪能「くるす桜」、和歌の専門的なイベントの開催、地域住民主体のイベント開催を支援します。

古今伝授の里づくりを支える人材の育成、短歌を通じた世代間交流など、担い手づくりに取り組みます。

重点2**大和地域ブランドの磨き上げ**

交流・情報発信の場として、古今伝授の里フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと、郡上旬菜館やまとの朝市などのほか、商業集積地などに市内外から多くの人々が訪れています。また、和歌をはじめとした中世からの文化、どぶろくやジビエをはじめとした食などの地域資源を大和地域ブランドとして確立する取り組みを進めてきました。

一方、大和地域の観光入込客は伸び悩んでおり、まだまだ地域資源を活かしきれていないのが現状です。しかし、令和2年に外資系ホテルが進出したことを受け、人の流れが大きく変わることが期待されます。この機会を活かすため、地域資源の活用を進め、多様化する来訪客に対応した観光案内や情報通信環境の整備等を行い、大和地域ブランドの磨き上げを進めます。

【取り組み内容】

どぶろくやジビエ等の地域資源を活かして観光集客力を強化し、地域ブランドの磨き上げを進めます。

大和を起点とした周遊モデルコースや、特色ある滞在プランをつくり提供します。

観光案内看板、情報通信環境の整備など、多様化する観光客の受入体制を整えます。

重点3**みんながつながる大和づくり**

令和6年4月に、4つの小学校が統合することから、校区が広がり、ますます地域内の交流の機会が減っていくことが懸念されます。そのため、世代を超えた交流の場を積極的に設け、みんなで地域づくりに取り組んでいく必要があります。

今後、コミュニティ・スクールの取り組みと合わせて、統合する新しい小学校が地域や世代間の交流の拠点となるよう検討するとともに、統合により使用されなくなる各小学校の利活用についても検討していきます。

【取り組み内容】

子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流できる機会をつくります。

地域住民が主体となった各種団体が連携して開催するイベント等を支援し、交流の輪を広げます。

小学校の統合による地域交流の変化に対応すべく、地域交流のあり方を検討する場を設置します。

白鳥

地域資源を活用し 市民協働によるいつまでも住み続けたいと思う
地域づくりを進めます ～白山文化の里「しろとり」～

白鳥地域は、長良川の源流域に位置し、白山に連なる山嶺等の自然環境に恵まれ、歴史的にも白山への登拝路である美濃禅定道の入口として、白山信仰と共に栄えてきた地域です。長滝白山神社、白山中居神社等の白山信仰にまつわる見どころや文化財、長滝の延年など、今なお白山信仰に根ざした文化が息づいています。さらに、地域の伝統芸能であり、重要な観光資源である白鳥おどりは、夏の風物詩として若い世代を中心に人気があります。また、北陸地方と中部地方等を結ぶ中部縦貫自動車道の整備が着々と進められており、東海北陸自動車道と接続する白鳥地域は広域交通の要衝として期待される地域でもあります。

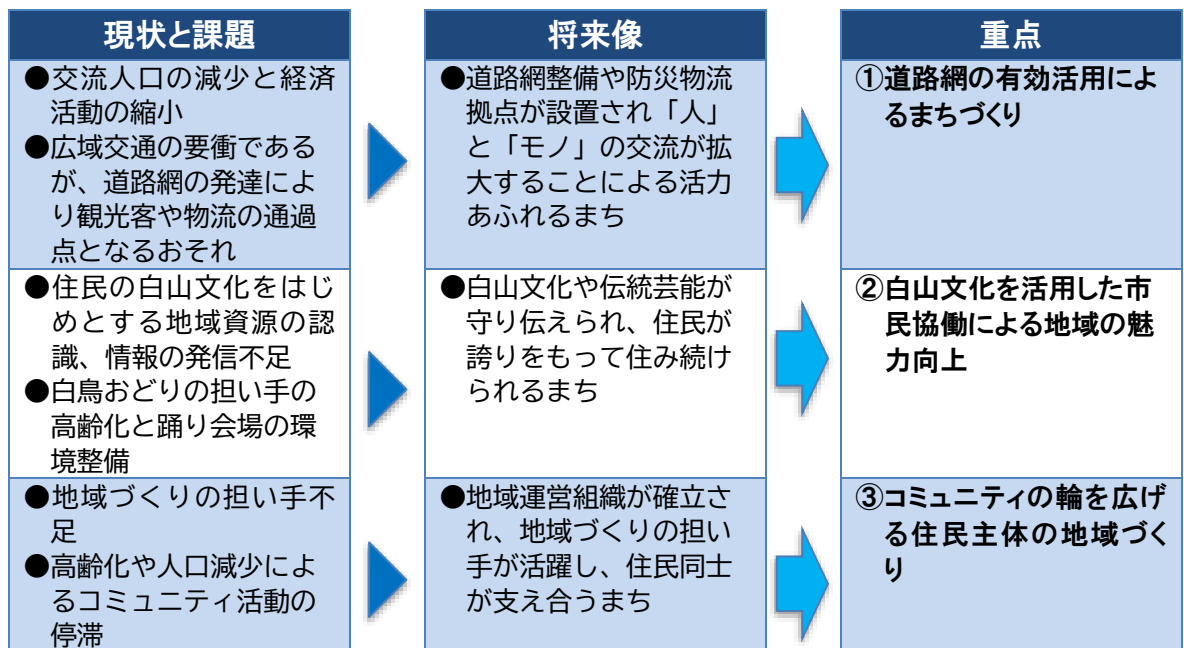
白山信仰にまつわる文化や白鳥おどりははじめとする伝統芸能などの地域資源を活用し交流人口を拡大するとともに、立地条件を活かした物流と防災機能を向上させる取り組みを進め、活力にあふれた安全で安心な地域づくりを目指します。



白鳥の拝殿踊り



白鳥地内を縦断する東海北陸自動車道



重点1

道路網の有効活用によるまちづくり

白鳥地域は、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道が接続し、一般道では岐阜方面と富山方面を結ぶ国道156号と福井方面と松本方面を結ぶ国道158号が貫通する交通の結節点となっています。令和4年度には、中部縦貫自動車道が大野ICから和泉ICまで開通するため、北陸方面からの交流人口や物流の更なる増加が見込まれます。

これらの道路網整備を見越して、防災物流拠点施設の設置・活用の可能性調査や観光客の集客につながる取り組みを推進します。

あわせて、白鳥地域の広域防災拠点に指定されている郡上市合併記念公園へのアクセス道と周辺の市道の整備・改良を進め、防災機能の向上を図ります。

【取り組み内容】

中部縦貫自動車道と東海北陸自動車道の交通結節点として、防災物流拠点の需要と地域住民の生活環境に対する影響を調査し、拠点設置・活用の可能性について検討します。

北陸方面からの交流人口の増加を見越した積極的な観光プロモーション等により集客を図ります。

広域防災拠点へのアクセス改善による地域防災力の強化と、地域住民の利便性向上を図ります。

重点2

白山文化を活用した市民協働による地域の魅力向上

白鳥地域には、白山信仰に関する歴史文化や白鳥おどり等の伝統芸能等、地域資源が多くあります。しかし、その魅力を十分に活かしきれておらず、観光客等の増加につながっていません。そのため、住民自らが地域資源の魅力を理解し、愛着を深め、その魅力を発信していく取り組みが必要となっています。

また、地域を代表する伝統芸能である白鳥おどりは、担い手の高齢化に加え、踊り客が会場で快適に過ごすための環境の充実が求められています。

今後は、住民が地域資源を学び、その魅力を広く発信するとともに、次世代へ継承する活動を推進します。

【取り組み内容】

白山信仰にまつわる地域資源の魅力を住民と一体となってこれまで以上に発信し、周辺施設一帯の集客力を高めます。

白鳥地域の特色ある歴史・文化を学び、次世代への継承と観光ガイドの養成を行います。

白鳥おどりの受入環境の整備と、後継者の育成・支援を行います。

重点3**コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり****【取り組み内容】**

白鳥地域では、18の自治会それぞれが特色あるコミュニティ活動を行っています。人口減少や少子高齢化による活動の停滞や地域防災力の低下などが危惧されています。このため、これまで以上に地域住民のつながりを深め、交流を活性化する取り組みや、地域づくりの担い手の確保などが必要となります。若い世代の人材育成の取り組みや、高齢者が健康で生きがいを持ち、いきいきとした暮らしのできる環境を整えるとともに、全世代による交流の場づくりや地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

学校、企業との連携により、若い世代が地域とのつながりを深める取り組みを進めます。

高齢者のふれあいの場となるサロン活動の継続と拡大を支援するとともに、生きがいに結びつく地域での活躍の場を創出します。

住民主体のコミュニティ活動に対する支援を行い、地域運営組織の確立を目指します。

石徹白地区地域づくり協議会を中心とした小さな拠点とネットワーク

白鳥地域の小さな拠点エリアは、1次生活圏としての白鳥のほかサブエリアとして北濃、牛道、石徹白の4つのエリアに分かれています。

サブエリアの一つである石徹白地区は、石徹白自治会が地区の各種団体に働きかけを行い、平成19年に「石徹白地区地域づくり協議会」が設立されました。

平成21年には「将来にわたっても石徹白小学校を残す！」をスローガンとした「石徹白ビジョン」を策定され、「石徹白ファンづくり」「産業・雇用の創出」「定住促進」を活動の3本柱と位置づけて、農業用水を利用した小水力発電、地元食材を活かした食品加工販売、民泊受入れ、移住・定住の促進、高齢者の買い物等外出支援などの活動が行われてきました。

こうした取り組みにより移住者の増加や集落営農の開始などの成果が現れていますが、高齢化による担い手不足や地域経済の疲弊など、まだまだ課題は山積しています。このため、新たな展開として、「私たちが何をするのか」という視点で組織のあり方も含めて今後の地域づくりの方針を地区全体で共有し、行動していく取り組みが始まっています。

また、白鳥地域協議会では、白鳥地域内の地域づくり団体等のネットワーク化を図り、自治会活動等をサポートする動きに結び付けることで、各地区において地域運営組織の立ち上げを目指す取り組みも計画されています。

今後は石徹白地区や白鳥地域協議会による取り組みを支援しながら、小さな拠点とネットワークの形成と地域運営組織の確立を目指していきます。

高鷲

自然と共存した文化の継承と 安定した生活を送れる地域づくりを進めます ～開拓の心を伝える長良川源流の里「たかす」～

高鷲地域は、豊かな自然と雪に恵まれ、夏はアウトドア、冬はスキーやスノーボードに多くの観光客が訪れます。また、冷涼な気候を利用して作られる、ひるがの高原大根や春まちにんじん、トルコキキョウ、乳製品などの特産品が生まれ、地域産業を興してきました。

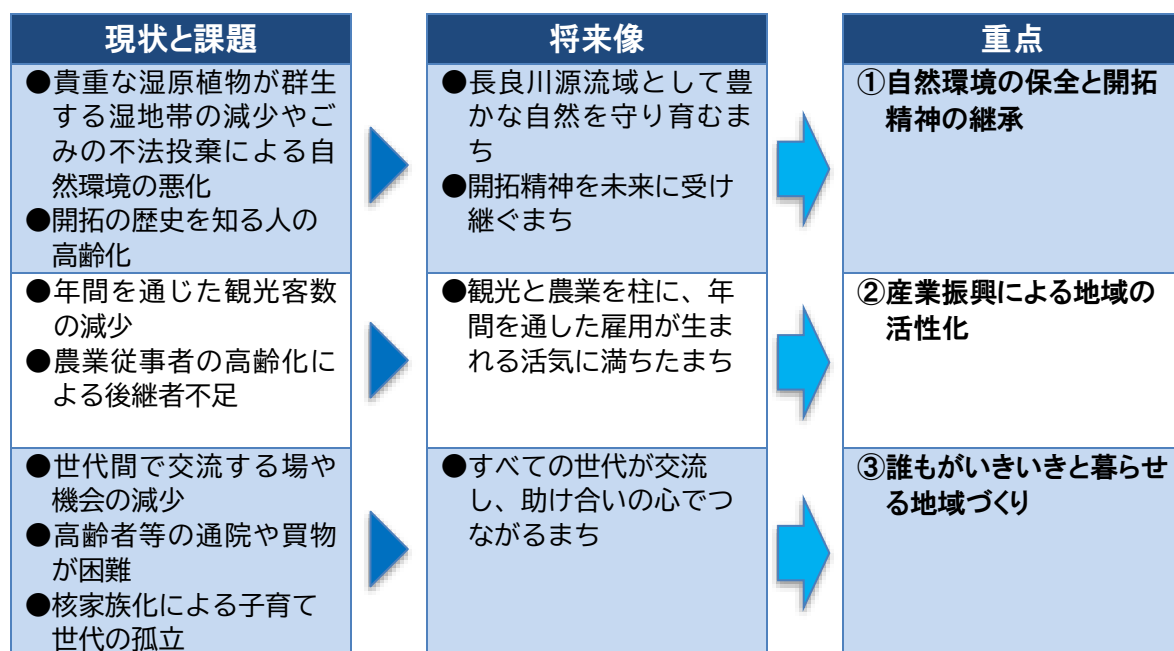
その一方で、農業と観光業の担い手不足や、地域内の移動手段に乏しく通院や買い物に困る高齢者の増加など課題も少なくないことから、世代を超えて支え合うコミュニティの形成とともに、自然と共存した文化の継承と、より安定した生活の送れる、持続可能な地域づくりを目指します。



長良川の源流



たかす雪まつり



重点1

自然環境の保全と開拓精神の継承

長良川源流域のひるがの地区はギフチョウの生息地であり、ミズバショウの群生地として知られています。しかしギフチョウの乱獲が後を絶たないことや、ミズバショウが群生する湿地帯の縮小が問題となっています。長良川源流域として、先人から守り受け継いだ自然を末永く後世に継承することができるよう自然環境の保全に努めます。

また、未開の地であった蛭ヶ野・上野高原などが戦後に開拓され、先人の努力による「ひるがの高原ブランド」を確立するとともに、多くの産業が生まれ、観光地として賑わいを見せています。ここに至った開拓精神を若い世代に継承し、ふるさとの誇りを高めます。

【取り組み内容】

湿地帯維持を目的とした外来種駆除等の協働活動を継続し、ギフチョウ等の生態系を守ります。

湿原や高原植物を保護するための知識をもつ人材を養成します。

学校のふるさと学習の一環として、たかす開拓記念館の活用を進め、開拓の歴史や文化、精神を継承します。

重点2

産業振興による地域の活性化

高鷲地域は全国有数のウィンタースポーツのリゾート地となっていますが、近年は温暖化による雪不足に加えスキー人口の減少もあり、最盛期に比べて集客に落ち込みが見られます。そのため、令和2年度に採択された国際競争力の高いスノーリゾート形成計画に基づき、事業者、関係団体等が一体となった取り組みを進めます。

また、年間を通じた集客と雇用創出のため、グリーンシーズンにおける農業と観光を組み合わせた体験・滞在型プランづくりが必要です。その一方で農業の担い手は不足しており、新規就農者等の確保のため空き家の改修等を支援し、担い手を受け入れる環境を整備します。

【取り組み内容】

国際競争力の高いスノーリゾート形成計画に基づき官民一体となった取り組みを推進します。

年間を通じた雇用・集客を目指すため、グリーンシーズンにおける滞在プランやモデルコースづくりを協働で行います。

農業の担い手確保のためインターンシップによる農業研修を支援するとともに、住居確保のための空き家改修等を支援します。

重点3

誰もがいきいきと暮らせる地域づくり

高齢化や独居世帯の増加に伴い、高齢者が買い物や通院で不便を感じる事が課題となっていることから、地域ぐるみでの移動支援策に取り組めます。また、経験豊かな高齢者がいつまでも元気で活躍できるよう、健康づくりや体力向上につながる教室の実施など、積極的な取り組みを進めます。

さらに核家族化等により世代を超えた交流が希薄になる中、育児をする人の不安感の増大が懸念されるため、多くの人の手で支えていける子育てに優しい地域を目指します。

【取り組み内容】

交通弱者への支援として、公共交通の再編と新たな交通手段を検討し、持続可能な交通体系を構築します。

高齢者のフレイル予防・認知症予防のため、定期的な運動教室を開催します。

世代を超えた交流の機会を増やし、子育て世代が情報交流できるサロンを充実させます。

美並

魅力的なコミュニティの形成による住みつづけたい地域づくりを目指します ～円空のふるさと美並～

郡上市の南端に位置する美並地域は、地域の中心を長良川や東海北陸自動車道、国道156号、長良川鉄道が縦走し、都市部とのアクセスの良さから、グリーンシーズンには長良川をはじめとしたアウトドア体験に多くの観光客が訪れています。また、市内でも比較的雪が少ない気候を活かし、人工芝化などを行った「まん真ん中広場」を軸としてスポーツ大会や合宿の誘致を進めています。

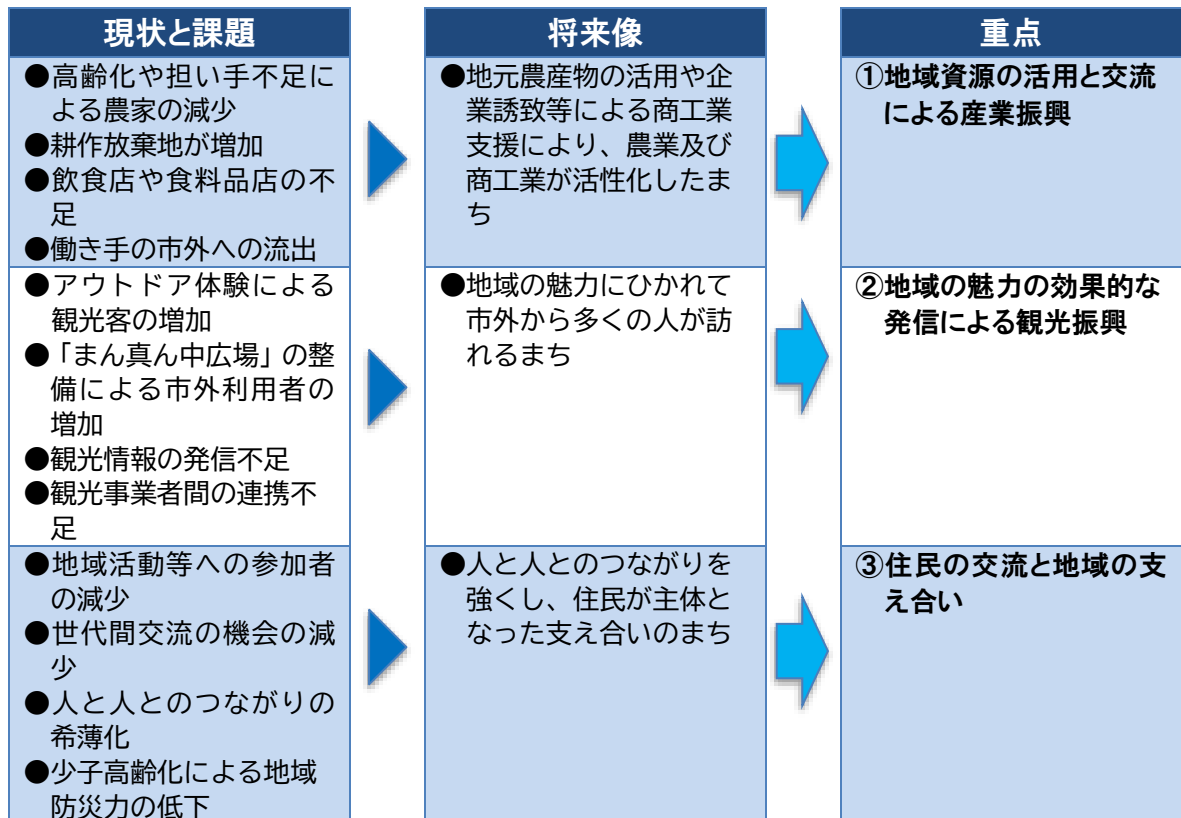
しかしながら、少子高齢化と人口減少が進んでおり、農業や地域活動の担い手が不足していることから、私たちが住む地域の魅力ともいえるべき「円空」や「清流長良川」の自然を守り、人と人とのつながりを深め、活発な地域コミュニティをつくり上げることで、住みやすいだけでなく、住みつづけたい地域となることを目指します。



美並ふるさと館



まん真ん中広場



重点1

地域資源の活用と交流による産業振興

美並地域では、農家の高齢化や農業所得の低下により、安定した農業経営の継続が困難となっており、農業従事者の減少や耕作放棄地の増加が進んでいます。農作業の効率化と安定した農業経営を図るため、地元農産物を活用した新商品の開発や、観光農園等での収穫体験による都市部との交流等に取り組むとともに、農業の魅力を発信し、担い手となる新規就農者の獲得を目指します。

また、地域内には商店が少なく、買い物支援が必要であることや、都市部と隣接しているため市外で働く住民も増加しています。そのため、既存商店の継続や創業に向けた支援に取り組むとともに、企業誘致を推進することで働く場所を確保し、地域経済の活性化を図ります。

【取り組み内容】

持続可能な農業を目指し、スマート農業（ドローンによる防除事業等）への取り組みを支援します。

地元産のイチゴやブルーベリーなどを用いた新商品の開発や、朝市等の開設を支援します。また、観光農園等での収穫体験による都市部との交流を推進します。

商店の継続及び創業の支援や、大矢元地域の開発候補地等を中心とした企業誘致の推進により、商工業の活性化を図ります。

重点2

地域の魅力の効果的な発信による観光振興

美並地域では、グリーンシーズンの長良川を活用したアウトドア体験に多くの観光客が訪れています。また、「まん真ん中広場」は、人工芝のグラウンドやクラブハウスの整備によって、スポーツ合宿が可能になったことから、市外からの利用者も増え、交流人口の拡大が期待されています。

その一方で、「円空」や「日本林業遺産」に選定された文化資源などの情報提供が不足しており、「美並ふるさと館」への来訪者が少ないことから、一層の情報発信が必要となっています。そのため、各事業者が連携した滞在プランを作成してSNS等で発信し、新たな地域の魅力を伝えることで来訪者を増やし、観光産業の活性化を図ります。

【取り組み内容】

「まん真ん中広場」を活用した大会・合宿誘致とスポーツツーリズムを通じた交流人口の獲得を図ります。

宿泊施設や観光施設との連携により、滞在型のプランを提案します。

美並ふるさと館を拠点とした「円空」や「日本林業遺産」の情報発信を強化します。

重点3**住民の交流と地域の支え合い**

美並地域では、少子高齢化や人口減少、個人の価値観の多様化などにより生涯学習などの団体活動や伝統行事等の地域活動への参加者が減少しており、人と人とのつながりの希薄化が課題となっています。そのため、「日本まん真ん中センター」を拠点とした地域コミュニティ活動の活性化等の支援を行うことにより、地域や世代を超えた交流の機会を増やしていきます。

また、地域のコミュニティ活動の多くは自治会が中心となっており行われていますが、少子高齢化や、サラリーマン世帯が多く昼間人口が少ない地域特性により、今後は防災・防犯における協力体制や、高齢者と子どもの見守り活動等の体制を強化していきます。

【取り組み内容】

住民の交流の機会を増やし、人と人とのつながりを深めるイベント等の実施や、地域づくりの基盤となる人づくりを行います。

自治会への防災研修の実施や防災士の養成を推進し、地域防災力の向上を図ります。

住民同士の支え合いによる高齢者と子どもの見守り活動を支援します。

明宝

住民主体による手づくり自治と 産業の創出を目指します

～アフターコロナ社会とデジタル化に対応したハンドメイドの里「めいほう」～

明宝地域では3つの第三セクターと関連会社、3つのNPO法人、3つの一般社団法人が、それぞれに得意分野を活かして、地域活性化や地域課題の解決に向け成果を上げているほか、多くの地域づくり団体が自主的、主体的に活動を行うことで、過疎地域における集落再生の新たな波を生み出しています。

また、ハムやトマトケチャップ、鶏ちゃんなど、手づくりによる魅力あふれる特産品も多く、現在ではお米やジビエ、どぶろくのブランド化、地域資源を活かしたスイーツなど、新しいコンセプトを取り入れた商品開発も行われるようになってきました。

こうした取り組みを踏まえ、『手づくり（ハンドメイド）』を地域活性化のテーマとし、小さな拠点とネットワークづくりや再生可能エネルギーの推進を図るとともに、都市住民を含めた多くの人に「感動」と「共感」を与える農泊や自然体験の提供など新たな産業の創出や、未来を担う人材育成（雇用）を進めながら、住民自らが主体となって行動する手づくりの自治を目指します。



道の駅明宝「磨墨の里」



気良布平清流発電所

現状と課題

- 農山村資源を活かした地域ビジネスへの取り組みの不足
- 交通量の減少と新型コロナウイルス感染症の影響による観光客の減少
- 里山保全活動の衰退
- めいほうトンネルの開通
- 再生可能エネルギーの導入
- 少子高齢化に伴う地域活力の衰退
- 自治力の低下と担い手の不足

将来像

- 農山村資源を活かした新たな産業の創出により、人がにぎわう活気にあふれるまち
- 地域資源が有効に活用され、めいほうトンネル開通を契機とした交流による活気あふれるまち
- 担い手確保と人材育成により、地域課題に向けて住民自らが主体となって行動するまち

重点

- ①地域活性化の拠点づくりによる産業・雇用の創出と経済の好循環の確立
- ②地域資源の有効活用と社会基盤の変化に対応した地域づくり
- ③持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくり

重点1

地域活性化の拠点づくりによる産業・雇用の創出と経済の好循環の確立

【取り組み内容】

明宝地域の幹線道路である国道472号（通称：せせらぎ街道）の通行量は、東海北陸自動車道の全線開通や4車線化の整備促進に伴う影響を受け、ピーク時に比べて大幅に減少しています。そのため、集客力の向上を目的として、第三セクターなど団体間の連携により新しい産業を創出するとともに、明宝の玄関口であり産業の拠点となっている「道の駅明宝」を中心とした観光戦略の再構築が求められています。

そうした中、農山村資源を活かした地域ビジネスが生まれており、引き続き農泊事業等を推進し、新しい産業の創出による雇用拡大と、「道の駅明宝」を拠点とした集客力の向上により、地域内経済の好循環を生み出します。

「道の駅明宝」を中心とした来訪者の動向分析に基づく新たな観光戦略を推進します。

自然体験の提供や農泊など、里山や里川の恵みを活かした新たなツーリズム事業を推進します。

第三セクターを中心に団体間の連携を高め、商品開発や販路拡大により新しい産業・雇用の創出を推進します。

重点2

地域資源の有効活用と社会基盤の変化に対応した地域づくり

【取り組み内容】

明宝地域では、里山保全活動が盛んに行われていますが、今後、少子高齢化に伴い活動の衰退が懸念されます。豊かな里山を守るためには、農山地整備を推進するとともに、資源の有効活用が必要です。

そのため、今後は、獣害対策による獣肉等の利活用や、森、河川等の豊かな地域資源を活かした再生可能エネルギーの活用を推進することで、防災や減災に役立てるとともに、得られた収益を活用した自治力強化の取り組みを支援します。

また、「めいほうトンネル」の開通に伴う交通網の変化による通行量の増加など、社会基盤の変化に対応した地域の安全確保と地域振興を図ります。

獣害対策による獣肉等の活用を推進し、里山を保全します。

木質バイオマス発電、小水力発電などの再生可能エネルギーの活用を推進します。

めいほうトンネルの開通による、集落間のネットワークの再構築を推進し、地域振興を図ります。

重点3

持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくり

【取り組み内容】

明宝地域では、伝統行事の継承や集落環境整備等に住民が主体的に取り組んでいますが、少子高齢化による人口減少と、若い世代の進学等による地域離れが過疎化に拍車をかけ、地域活力の衰退が懸念されていることから、今後は、自治力の強化と地域の担い手の確保が必要となります。

そのため、人と人をつなぎ、地域課題の解決や地域活性化に向けた取り組みを推進していくほか、未来を担う子どもたちに地域の良さを伝え、郷土愛を深める取り組みを推進します。

NPO法人や地域づくり団体の連携強化による地域課題の解決や地域活性化に向けた取り組みを推進します。

ふるさと教育等による未来を担う子どもたちの育成と、地域づくり団体間の情報交流、連携強化による人材育成を推進します。

地域課題の収集と情報発信により、支え合い活動や移住・定住に結び付けられるようなビジターセンターの再構築を進めます。

既存の施設や活動を活かした小さな拠点とネットワーク

明宝地域では、観光交流・生活者支援分野は道の駅明宝を、公共サービス分野は明宝コミュニティセンターや隣接する明宝保健センター、明宝庁舎を拠点施設として小さな拠点とネットワークの取り組みを進めています。すでにNPO法人が福祉支援を主とした地域課題解決の取り組みを行うとともに、市民協働センターのサブセンター機能を担っています。

今後は、この2カ所を拠点と位置づけて、分野ごとに明宝地域協議会が中心となって関係団体の役割分担を明確にすることで地域運営組織の形成を目指していきます。

和良

地域資源を活用した産業振興を図り いつまでも安心して暮らしていける地域づくりを進めます ～緑豊かな清流の里 和良～

和良地域は、過去に男性長寿日本一になるなど医療や福祉が充実し、長寿の里として注目されました。しかしながら、少子高齢化は他地域と比較して加速しており、社会基盤や集落の維持、祭礼行事の継承が困難になりつつあります。

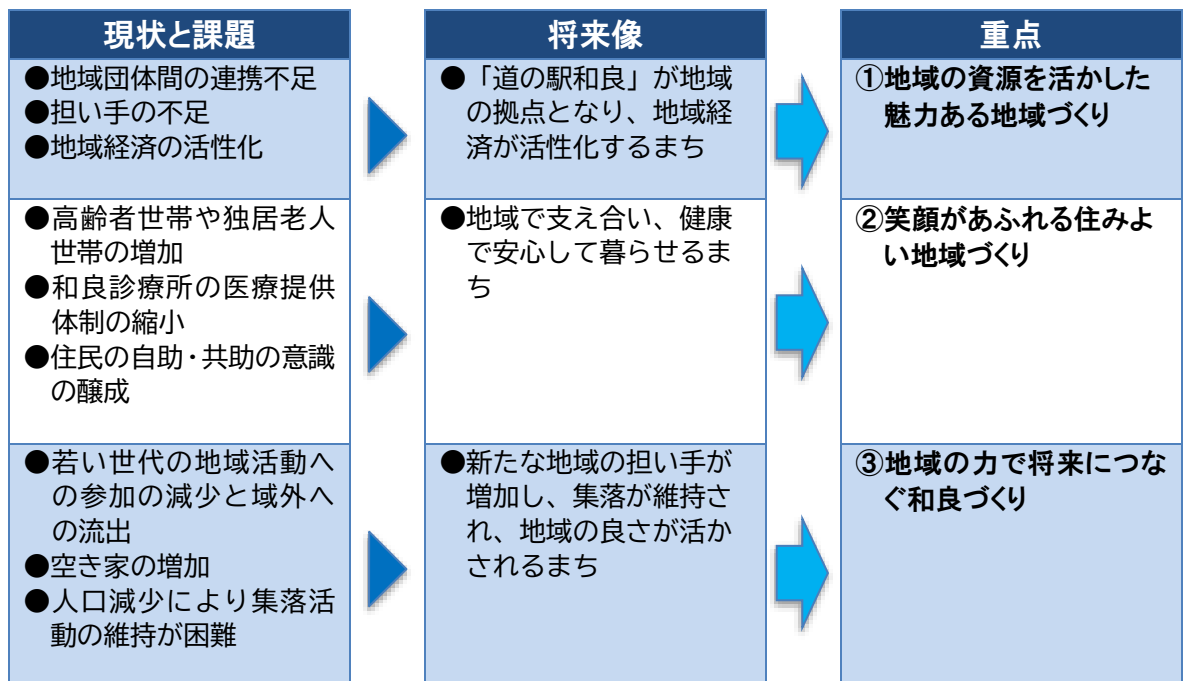
この地域には、全国清流めぐり利き鮎会で過去4回グランプリを獲得した和良鮎とともに、特別天然記念物オオサンショウウオや蛍が棲む豊かな自然環境と農村風景があります。濃飛横断自動車道の整備を見据え、和良の資源を活用した地域振興を図るとともに若者の定住や空き家を活用した移住促進に取り組むなど、地域の力を高め、安全で住みよい地域づくりを目指します。



田んぼオーナー制度



「和良鮎」放流



重点1

地域の資源を活かした魅力ある地域づくり

和良地域には「和良鮎を守る会」や「和良蛍を守る会」などの地域資源を活かした活動を行う団体はあるものの連携ができておらず、効果的に地域資源を活用できていない状況です。また、産業分野すべてにおいて担い手が不足し、現状を維持していくことが難しい状況となっています。

今後もこうした活動を継続し成長させていくためには、地域の仕組みづくりが必要であり、「道の駅和良」を地域資源を活かした産業振興の拠点と位置づけ、地域団体間の連携による産業構造への転換を図り、地域経済の活性化へとつなげていきます。

【取り組み内容】

担い手の確保や産業全体の持続性を高めるため、農業、商工業者との連携を強化し、「道の駅和良」を拠点とした産業の振興を図ります。

和良川の水で育った農作物などを「和良川の恵」としてブランド化し、和良鮎、和良産米、和良蛍などを効果的にPRしていきます。

農林水産業を地域全体で支援するため、都市交流やネット通販による販売力の強化を図ります。

重点2

笑顔があふれる住みよい地域づくり

高齢者世帯や独居老人世帯が年々増加しており、和良診療所の医療提供体制の縮小や移動手段の脆弱性等、住民の不安が膨らんでいます。

このため、乳幼児から高齢者に至るライフステージごとの健康課題を克服するための施策をまとめた「まめなかな和良21プラン」に基づく住民の健康づくりを推進するとともに、既存の医療福祉施設と関係団体との連携を強化し、地域の支え合い活動が継続できる仕組みを構築します。

また、平成30年7月の豪雨災害、9月の台風被害を受け、住民の自助・共助の意識が高まりつつあり、防災士の養成と自主防災会の活動強化を図ることで、地域の人々の手で地域を守っていく意識と体制を構築していきます。

【取り組み内容】

健康で暮らし続けるため「まめなかな和良21プラン」を地域全体で推進していきます。

高齢者の移動手段を確保するため、福祉有償運送の導入の検討を進めるとともに、市民による高齢者支え合い活動を支援します。

地域の防災力を強化するため、住民の自助と共助の意識向上と、地域の防災士の養成を促進します。

重点3**地域の力で将来につなぐ和良づくり****【取り組み内容】**

若い世代の地域活動への参加の減少や、進学、就職を機に都市部へ流出することで集落活動の維持が困難となり、祭礼の維持や伝統芸能の存続も危惧されています。また、過疎化による空き家の増加も大きな課題となっています。

将来、地域に戻ってきてくれる若者を一人でも増やすため、地元の自然環境や伝統文化などに触れる機会を積極的に設けるなど、子どもたちの郷土愛を育てる場を創出していきます。

また、地域の人口減少の緩和と新たな地域の担い手確保のため、都市部との交流や移住・定住事業を推進し、集落活動の維持と活性化を図ります。

伝統文化や芸能、豊かな自然環境を大切に守っていくための地域活動を支援します。

郷土愛の醸成や将来の担い手育成のため、公民館活動や伝統文化学習を推進します。

空き家の利活用による移住・定住の促進と、移住者と住民が交流する機会を創出します。

和良の郷夢ビジョンを活用した小さな拠点とネットワーク

和良地域では、和良地域協議会が平成28年に「和良の郷夢ビジョン」を策定し、道の駅和良を拠点とした地域における観光・産業振興の基盤強化を検討してきました。夢ビジョンには小さな拠点とネットワークの考え方が組み込まれており、既存の公共施設を4つの機能（道の駅和良：観光産業、和良歴史資料館：教育文化、和良診療所・和良老健・保健福祉施設：医療福祉、和良振興事務所：防災・自治）に分類し、関連する団体や組織を組み合わせることで運営を行う計画となっています。今後も夢ビジョンを基にしながら小さな拠点とネットワークの形成に向けて協議していきます。

第2章 分野別基本計画

6 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

